

キャリアアップ

私の

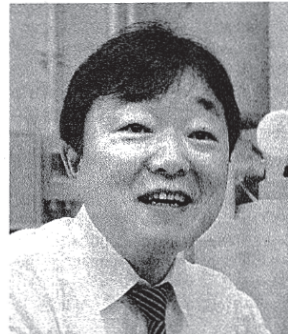
新人時代

■京都大学の野田進教授(55)は、光を自在に操る「フォトニック結晶」研究の第一人者だ。太陽電池などの効率を大幅に引き上げると期待されている。1984年に三菱電機に研究職として入社した。

三菱電機では、光ファイバーに使う半導体レーザーの開発に取り組みました。性能を高めるには波長の幅を狭める必要があります。そのため、電子などが通る層を数ナノ(ナノは10億分の1)の程度に薄くしました。この技術はその後、インターネットの回線などに使われました。

■当時の半導体産業は勢

京都大学教授 野田 進氏



のだ・すすむ 1982年京都大学工学部卒。84年同大学院修士課程を修了、三菱電機に入社。88年京大へ移り助手、92年助教授。2000年から現職。

下積みの不満

バネに

いがあり、研究チームは精鋭ぞろいだった。リーダーはその後副社長になった久間和生さん(現・総合科学技術・イノベーション会議員)。他の先輩研究者もみな優秀でした。

まず、半導体の薄膜作製を担当グループへ修業に出ました。装置は全国に2〜3台し

■年末に近づくとうや

修修での成果は有名な科学誌に論文が載りました。次の年からレーザーの開発に取り組みました。

■2年目の夏、自ら手を

フォトニック結晶は次世代のレーザーや究極の計算機といわれる量子コンピューターなどの実現に役立つと期待されている。今後も産業応用を目指して画期的な成果を出し続けるつもりだ。

「最初の数年は学生時代の貯金で仕事ができるが、その後は自力で勉強しないとけない」。就職するとき佐々木先生に助言されました。三菱電機は先輩たちも勉強熱心で、刺激を受け続けました。

120リットの液体窒素ボンベ、手押し車で7ヵ月運び続けた

く装置を使えるようにな

挙げて難しい課題に挑んで実用化に近づけました。上司から命令されるのではなく、自分がやりたい仕事は手を挙げてでもやるべきです。

この間の成果をまとめた論文は10本以上になりました。これが恩師の佐々木昭夫先生の目にとまって、京大に戻る必要条件だったからです。

最初に実験に成功すると、久間さんからはあと先輩に任せようように指示されました。しかし私としては「ここまでやったからには続けてやりた」と訴えました。

先輩も私を支持してくれませんでした。自分で手を挙げた以上は絶対に成功させなければなりません。一生懸命に研究

就職してからも、研究論文を読んで勉強を続け

学ぶ 磨く 育てる